

## 高 校 入 試 (1)

公立高校の入試まで100日を切り、あと90日になりました。定期テストが終わったり、いま定期テストの最中だったり、これからという学校もあると思います。定期テストを頑張って内申点が上がりそうな人もいれば、うまく点数を取れなかった人もいます。しかし、ここでテストの結果によって一喜一憂したり、テスト後の休憩をしている時間はありません。もう既に志望校を決めて受験勉強や面接試験の練習に励んでいると思います。また、成績次第では志望校を変更する人もいます。何はともあれ、机に向かうことです。

この時期になると人によって何をやるかは異なります。勉強が順調に捗っている人は、そのままのペースを維持するように努めてください。しかし、そうでない人は、何が出来ていないのかを考え、その克服を図りましょう。例えば、自分の不得意な教科・科目がある場合、この不得意教科・科目の克服に努めましょう。この時期、得意科目を伸ばすことより、苦手科目をなるべく克服しておくことが大切です。社会が得意科目で89点を取り、数学が不得意科目で49点なら、社会科は満点まで11点しかなく、数学は満点まで51点もあります。大幅な学力アップを図るには、とにかく苦手科目の点数を上げるようにしてください。仮に満点を取れなくても、数学の得点を上げることはできると思います。数学は設問1問の配点が高く、計算問題で確実に点数を稼ぎ、さらに証明問題ができれば高得点が取れます。たとえ証明が完全にできなくても部分点を取ることができれば、点数は上がります。

また、理科が不得意だという生徒の場合、理科で点数の差がでやすいといわれるのが物理と化学といわれています。物理や化学の場合、計算問題が出題されます。その計算問題を解いていくには公式や法則をきちんと覚え、使えるようになっていることが大切です。

苦手科目は得意科目より得点を伸ばすことのできる科目であることを忘れず勉強しましょう。前にも記しましたが、間違えた問題を無くすることが大切なのです。定期テストで間違えた箇所、模擬試験で間違えた箇所、問題集や塾のテキストで間違えた箇所を、なぜ間違えたのか理解して正解を導きだせるようにしてください。得意科目は実践的な過去問題や模擬試験等を解いて確実に得点を取れるようにしましょう。

過去問題や模擬試験は、実際の入試問題や出題形式、検査時間など同じように実施されますので入試問題に慣れることができます。特に、問題を解くための時間配分や解く順番などを見極めることができます。神奈川県公立高校の過去の入試問題は、神

奈川県のホームページ(神奈川県 HP→教育・文化・スポーツ→入試・進学→公立高校入学者選抜→神奈川県公立高等学校入学者選抜)で閲覧、プリントアウトすることができます。関東の他都県の過去の公立高校入試は、各都県の教育委員会のホームページで閲覧することもできます。また、東京新聞の TOKYO Web(首都圏公立高校入試)からも閲覧することができます。さらに全国の高校入試問題集も書店で販売されています。他都道府県の公立高校入試問題を解くのも参考になると思います。

塾に通っている人は、塾から課された宿題や模擬試験だけを一生懸命に行っている人がいますが、中学校での授業の課題や小テストに取り組むことも大切です。この時期には、自らの勉強プランや勉強ペースを確立していることが肝心です。

逆に、勧められない勉強法は、基礎ができていないからといって教科書やノートを用いて最初から勉強し直すことです。時間的に間に合いません。この時期はいままでの上台の上に実践力を身につけていく時期なのです。また、何冊かの新しい参考書を買って勉強したり、新たな塾に入ったりして勉強することも、時間的なことを考えると避けるべきです。この時期は実践力を図り、向上に努めるべきです。

もう1ヶ月もすれば冬休みになります。冬休みになれば、入試まで最後の追込み時期、すなわちラストスパートの時期になります。それまでに苦手科目の勉強を終わらせ、次に過去問題、模擬試験などの実践的な問題や、不得手な単元などの勉強を行うようにしましょう。

入試直前は風邪やインフルエンザなどへの注意を払いますが、この時期から風邪やインフルエンザへ注意を払い、休むことのないようにしましょう。風邪やインフルエンザに罹患し、5日も1週間も休んでしまうと、それだけ勉強が遅れます。健康管理には十分に気をつけてください。インフルエンザの予防接種を受けたり、マスクをしたり、帰宅したらうがいや手洗いをするなど、予防策をとってください。

この時期はテスト勉強で疲れ、つい息抜きをしようとしたら何時間も経過していたということがあります。息抜きをする場合でも、時間を決めておきましょう。50分勉強したら10分休憩を取り、また50分勉強するとか、1日のなかでSNSやLINE、ゲームなどを15分しかやらないとか、メリハリをつけながら勉強していきましょう。

保護者は受験期の子どもをどのように見守っていけばよいのか。まずは、受験生の健康維持に努めてください。部屋の暖房や換気に注意し、栄養バランスのよい食事を提供するなど、規則正しく生活リズムを整えるようにしてあげてください。深夜に勉強するより、早朝に勉強した方が効率がよいといわれます。また、受験生の子どもに過度なプレッシャーをかけないでください。「勉強しなさい」「兄はA高校なのに」「B君はC高校よ」などの言葉は禁句です。子どもを他の子と比較しないでください。受験は子と保護者で経験する社会の通過儀礼です。子どものために適切な距離をとりながら支えてあげてください。また、受験期の保護者も友人たちのお喋りや趣味、スポーツなどでリフレッシュしながら、子どもに接してください。